

企画展 **上野駅と猪熊弦一郎の《自由》**

2026年3月1日(日) – 6月28日(日)

[上野駅の猪熊弦一郎による壁画《自由》が修復を終え、再び公開]



猪熊弦一郎 《自由》 1951年 撮影:木奥恵三(2025年2月)

展 覧 会 名	上野駅と猪熊弦一郎の《自由》
会 期	2026年3月1日(日) – 6月28日(日)
休 館 日	月曜日(ただし5月4日は開館)、5月7日(木)
会 場	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館3階展示室C、2階展示室A

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 / 公益財団法人ミモカ美術振興財団

担当キュレーター: 古野華奈子 広報担当: 佐伯美帆、谷村無生

〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1

TEL 0877-24-7755 FAX 0877-24-7766

E-MAIL press@mimoca.jp URL www.mimoca.jp



— 開催趣旨



《自由》修復中のJR上野駅グランドコンコース 撮影：木奥恵三（2025年6月）

置された「『自由』を修復しています」という横断幕が意味深長とSNSで話題になり、壁画自体も注目されました。

《自由》の修復を含め、現在リニューアル工事が進行するJR上野駅グランドコンコースでは、クリエイティブユニットSPREADが《自由》から採集した色彩を現代的にアレンジした色の組み合わせ「フリーダムカラー」を用いて空間全体の調和を図る計画も進んでいます。

本展では、上野駅の壁画《自由》に焦点を当て、その成り立ちから現在までを紹介します。《自由》というタイトル、「絵画は独占するものでなくより多くの人々を喜ばせ、みちびくもの、多くの人々のためになるべきもの」という猪熊の言葉、それに込められた画家の思いを再考する機会となれば幸いです。



参考：真田将太朗氏によるX投稿
©真田将太朗

本展の見どころ

上野駅と壁画《自由》の歩みをたどる

1883年に開業し長い歴史を持つ上野駅と、1951年に制作され「北の玄関口」の象徴となった猪熊の壁画《自由》。上野駅の歴史を年表で紹介とともに、壁画《自由》が駅の一部としてどのように関わってきたのかをたどります。

壁画《自由》のスケールを体感する

スケール感を体感するため、幅約27メートル、高さ約5メートルに及ぶ壁画《自由》の外枠を、展示室の壁に原寸大で型取りします。あわせて、猪熊が北国の風物をモチーフに描いた壁画の一部を原寸大写真で展示します。

壁画《自由》の修復作業の現場を紹介

三度目の大規模修復で行われた、普段は目にすることのできない緻密な修復作業の様子を、写真や実際に使用された道具とともに紹介します。

「フリーダムカラー」による空間全体の調和

クリエイティブユニットSPREADが壁画《自由》から採集した色彩「フリーダムカラー」を用いて、空間全体の調和を図る計画を紹介します。

展示構成

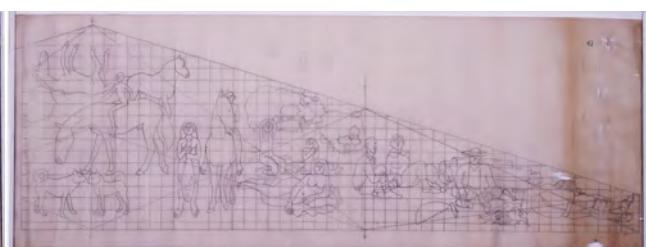
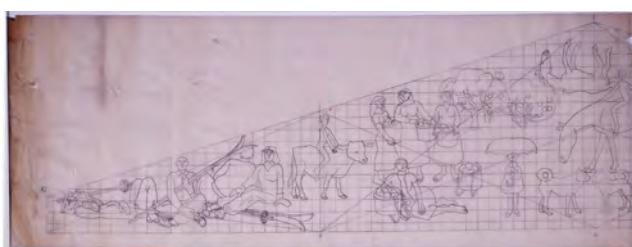
1章.上野駅について

上野駅は、1883年(明治16)に開業し、2023年(令和5)に開業140周年を迎えました。長い歴史を持つ、東京を代表する駅の一つで、東北や北陸方面行きの列車が発着する東京の「北の玄関口」として親しまれてきました。多くの人が行き交う交通の要所でありながら、周辺には自然豊かな上野恩賜公園や多様な文化施設、古い町並み、情緒あふれる下町文化が広がっています。

今展では、上野駅の歴史を年表でたどり役割や特徴を紹介するとともに、その歴史に含まれる猪熊の壁画《自由》が駅の一部としてどのように歩んできたのかを概観します。

また、東日本旅客鉄道株式会社の協力により、同社が製作しJR上野駅構内で上映していた映像《上野発の名列車》も特別に展示し、上野駅の魅力に迫ります。

2章.壁画《自由》について



猪熊弦一郎 《自由》原画 1951年

壁画《自由》が制作された経緯、当時の制作の様子、絵に込められた作者の思いなどを下絵や資料でご紹介します。

また、幅約27メートル、高さ約5メートルに及ぶ壁画の大きさを体感できるよう、壁画の外枠を原寸大で展示室の壁に型取り、そこに絵の一部を原寸大写真で再現します。

さらに、別の壁に一色で塗りつぶされたもう一つの原寸大の枠に、会期中の関連プログラムを通して、参加者が少しずつ線や色を加えていく予定です。

*関連プログラムを開催予定です。詳細は決まり次第お知らせします。



1

2



3

4

1,2:修復中の《自由》(部分) 撮影:木奥恵三(2025年6月)

3,4:猪熊弦一郎 《自由》下絵 1951年

展示構成

3章. これからの上野駅と壁画《自由》

現在、JR 上野駅グランドコンコースでは、大規模なリニューアル工事が進行しています。そのなかで、壁画《自由》に関わるプロジェクトを2つ、ご紹介します。

①三度の大規模改修

小さなカンヴァス画に施すのと同じ緻密で丁寧な修復作業が、巨大な壁画に対して半年以上かけて行われました。作業を担った「有限会社修復研究所二十一」は、前回、2002年の修復も手がけています。



左、右：《自由》修復の様子 撮影：木奥恵三（2025年6月）

有限会社修復研究所二十一

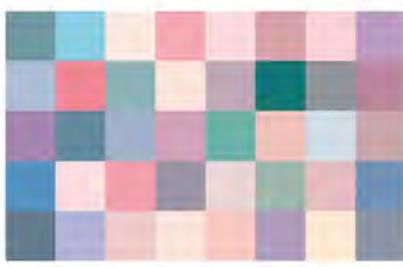
1972年創立。全国の美術館、博物館、個人等が所蔵する油彩画、水彩画、版画、デッサン、さらにこれらのカテゴリーに含まれない作品まで、多岐にわたる作品の修復を手がける。猪熊弦一郎作品の修復も数多く行っており、2008年には慶應義塾大学学生食堂の壁画《デモクラシー》の修復も担当した。

②フリーダムカラー

空間全体の調和を図るために、クリエイティブユニット「SPREAD」が《自由》から採集した色彩を現代的にアレンジした色の組み合わせ「フリーダムカラー」。その制作プロセスをご紹介いたします。



SPREAD 《自由》の色彩の採集(1回目) 2024年



SPREAD 《UEENO FREEDOM COLOR》 2024年

SPREAD

2004年に山田春奈と小林弘和が立ち上げたクリエイティブユニット。「あらゆる記憶を取り込み『SPREAD=広げる』クリエイティブを行う」ことをモットーとし、グラフィック、プロダクト、展示などのデザインやディレクションを手がける。2025年、四国村ギャラリー(高松)において「猪熊弦一郎 Form, People, Living 身の回りにある、秘密と美しさ」展のディレクションを担当。

— 開催概要 —

展覧会名	上野駅と猪熊弦一郎の《自由》
主 催	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
協 力	東日本旅客鉄道株式会社、SPREAD、有限会社修復研究所二十一
会 場	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 3階展示室C、2階展示室A
会 期	2026年3月1日(日)－6月28日(日)
開館時間	10:00－18:00(入館は17:30まで)
休館日	月曜日(ただし、5月4日は開館)、5月7日(木)
観 覧 料	一般1,500円(団体割引1,200円、市民割900円) 大学生1,000円(団体割引800円、市民割600円) 高校生以下または18歳未満・丸亀市内に在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方 とその介護者1名は無料 ＊同時開催の常設展「猪熊弦一郎展 20歳から90歳まで」の観覧料を含みます。 ＊団体割引は20名以上の団体が対象です。 ＊市民割は丸亀市民が対象です。チケットご購入時に証明する書類(運転免許証、保険証など)のご提示が必要となります。団体割引を含み、他の割引との併用は出来ません。

同時開催の常設展

「猪熊弦一郎展 20歳から90歳まで」

会場：2階展示室B

チケット購入案内

本展の観覧券は、JR東日本が運営するオンラインチケット販売サイト「JRE MALLチケット」でもお求めいただけます。販売開始日が決まり次第、同サイトにてご案内いたします。

JRE MALLチケット <https://event.jreast.co.jp/>

— 関連プログラム

キュレーター・トーク

本展担当キュレーター(古野華奈子)が展示室で来館者に見どころをお話します。

日時：2026年3月1日(日)、4月5日(日)、5月3日(日)、6月7日(日) 各日 14:00 —

参加料：無料(別途、本展観覧券が必要です)、申込不要

親子でMIMOCAの日

高校生以下または18歳未満の観覧者1名につき、同伴者2名まで観覧無料となります。

日時：2026年4月25日(土)、26日(日) 各日 10:00 — 18:00(入館は17:30まで)

*その他関連プログラムは、開催が決まり次第、順次当館ウェブサイト等でお知らせします。

— 出品作家プロフィール

猪熊弦一郎(いのくまげんいちろう)

- 1902年 香川県高松市生まれ。少年時代を香川県で過ごす。
1921年 旧制丸亀中学校(現 香川県立丸亀高等学校)を卒業。
1922年 東京美術学校(現 東京藝術大学)に進学、藤島武二教室で学ぶ。
1926年 帝国美術院第7回美術展覧会に初入選する。以後、1934年まで毎年出品し入選を重ねる。
1936年 同世代の仲間と新制作派協会(現 新制作協会)を結成、以後発表の舞台とする。
1938年 渡仏、パリにアトリエを構える(～1940)。滞仏中アンリ・マティスに学ぶ。
1950年 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。
1951年 国鉄上野駅(現 JR東日本上野駅)の大壁画《自由》を制作。
1955年 渡米、ニューヨークにアトリエを構える。
1975年 ニューヨークのアトリエを閉じ、東京に戻る。冬はハワイで制作するようになる。
1984年 上野駅開業百周年記念として《自由》が初めて修復される。
1989年 丸亀市へ作品1,000点を寄贈。
1991年 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館が開館。
1993年 逝去、90歳。
2002年 上野駅の大規模改修にあわせ、《自由》が修復される(2回目)。
2025年 上野駅グランドコンコースのリニューアルにあわせ、《自由》の修復が始まる(3回目)。



撮影：高橋章

広報用画像
について

以下のURLまたはQRコードよりご申請ください。
https://www.mimoca.jp/press/post_107/

